

# 「教育県大分」創造に向けた地域別意見交換会 in 豊後大野 開催概要

[開催日：令和4年11月28日(月)]

[学校訪問] 豊後大野市立 朝地小中学校

[訪問者] 大分県教育委員会(岡本教育長、教育委員、理事・教育次長 他)

豊後大野市教育委員会(下田教育長、教育委員、教育次長 他)

豊後大野市 小学校長3名,中学校長3名

## 1. 学校の概要説明

最初に、朝地小中学校の小中一貫校へのあゆみについて、校舎移転から小中間の授業乗り入れの取り組みなどを経て現在に至るまでの経緯説明がありました。

次に、学校教育目標やめざす子ども像に向けて、前期・中期・後期の活動紹介、学校運営、「絆の会」を中心とした地域との連携について説明がありました。さらに、学力面と心の面において、それぞれの成果と課題が示されました。

最後に「小中教職員の一体感を醸成し、さらなる指導の一貫性を確立して子どもたちの成長を支えていきたい」という方針が示されました。



朝地小中学校 安東校長による概要説明

## 2. 授業参観

朝地小中学校は、前期(第1学年～第4学年)、中期(第5学年～第7学年)及び後期(第8・第9学年)の各期会議でリーダー学年を活かす異学年交流の在り方について熟議を重ねています。

前期は各教科の授業、中期は中期集会、後期は総合的な学習の時間を参観しました。

### 授業風景

前期は、第1学年音楽、第2学年算数、第3学年外国語活動、第4学年算数の授業を参観しました。外国語活動では、中学校の英語教員が1人1台端末を用いて欲しいものを伝えたり尋ねたりするビンゴゲームを行っていました。また、音楽では実際に楽器の音を聞いて場面にあった音を探し、算数ではカードやワークシートを用いるなど、学習活動や教材の工夫をしながらまずは自分の考えを持ち、その後ペアやグループで考えを交流する時間が設定されていました。



【前期】



【中期】



【後期】

中期は、「要になるための One and Only 活動」について集会を行いました。朝地小中学校では、前期の活動は「ベースづくり」、中期の活動は「『要』の意識」、後期の活動は「発信」と位置付けています。集会では、中期の良さをもっと伸ばすために全校へ発信する取組について、5年生、6年生、7年生の順に発表し、その後、質問や意見交流を行い、取組を決定しました。集会を通じて、子どもたちは要として行動していくことを再確認しました。

後期は、総合的な学習の時間で郷土学習を行いました。「あさじと学ぶ」の単元で、朝地の魅力を伝えることについてのプレゼンテーションに取り組みました。グループに別れてプレゼンテーション原稿を相手に分かりやすく興味を持ってもらえる工夫を考えて校正し、その後、実際にプレゼンテーションをして意見交流を行いました。後期の活動である「発信」が意識されていると感じました。

【意見交換会テーマ】「芯の通った学校組織」を基盤とした教育水準の向上  
地域とともにある小中一貫教育 ～夢が実現する学校づくり～

【出席者】 学校訪問参加者 と同じ

### (1) 豊後大野市の教育基本方針について

「連携型小・中一貫教育」を、H25 朝地町内の学校を研究指定校とし、H27 には市内全ての中学校区にて実施、R2 の学校教育審議会を経て市内 7 つの町全てで「小中一貫教育校」の設立に取り組んでいます。また、各中学校区にコミュニティ・スクールを設置し、小中一貫教育校の推進や、目標協働達成、地域防災の推進を行っています。



豊後大野市の現状と取組についての説明

### (2) 小中一貫教育について

「地域とともにあるヘプタゴン教育『主体的な自己実現』をめざして」のもと、「キャリア教育、小中一貫教育、コミュニティ・スクール、確かな学力、豊かな心、郷土学、学校環境」の 7 つ柱で取組を進めています。また、豊後大野市版 4 点セットを作成し、県とベクトルを合わせて進めています。



### (3) ICT 機器の活用について

1 人 1 台端末を Gadget of Nexus (つながった気のきいた小道具) とし GON ちゃんの愛称で授業で活用し、より効果的な活用に向け緒方小学校を中心に研究を進めています。また、市報を通じて学校での活用の様子を発信しています。意見交換会の途中で、実際に参加者がタブレットで回答し、すぐにグラフ等に表示される様子を体験してもらいました。



### 【意見交換】

①小学校高学年教科担任制や②GON ちゃんの活用と個別最適な授業、③地域との連携、④部活動改革のあり方の 4 つの柱で意見交換を行いました。GON ちゃんの活用では持ち帰り活用状況を校長代表が説明し、県・市教育委員からは児童生徒の活用力が向上しているとの感想がありました。部活動については朝地中学校が県の事業として地域スポーツクラブ「フレンドクラブ」と連携した地域移行に取り組んでおり、指導者の資格の取得等を進めることやスポーツリーダーをアシスタントコーチに移行すること等、県教育委員や市社会教育課長からこれまでの取組や今後の展望を踏まえた意見交換が行われました。学校と地域で進める防災教育では清川小学校・清川中学校と地域が一体となった登下校時避難訓練が紹介され、県教育委員から「自分も保護者として参加している。地域がとても協力的である」「今は津波の心配はなくても将来役に立つ」といった意見が出されました。豊後大野市の「主体的な自己実現」を目指し地域とともに進める取組をご理解いただき、推進を後押しする多くの意見・質問をいただきました。

### 【意見交換を終えて】

#### 下田 市教育長より

子どもたちの夢の実現に向け、豊後大野市が進めてきた取組について説明させていただき、いろんな角度からご意見いただきました。今後の方向性を確認することができました。参加の校長代表と一緒に今後還元していきたいと思えます。



下田 市教育長

#### 岡本 県教育長より

本日はいろんなお話をお聞きでき、また拝見できて大変参考になりました。小中一貫校の仕組みや考え方もよく理解できました。コミュニティ・スクールにもしっかり取り組んでいただいております。加えて減災をそれに絡めるというやり方も他地域の参考となります。部活動の地域移行も先行してもらっていますが、引き続き協力してやっていきたいと思えます。



岡本 県教育長